

クラブユース選手権北海道大会

2012年7月1日, 7~8日, 14~15日, 21~22日

会場：夕張平和運動公園

【報告者】HFAテクニカルスタディグループ

優勝：コンサドーレ札幌U-15

準優勝：アンフィニMAKI.FC

3位：SSSジュニアユース

スプレッドイーグルFC函館



チームが個を活かす、個がチームで機能する

北海道クラブユース連盟に加盟する52チームがこの大会に臨んだ。今回は、7日間にわたる戦いのうち準決勝2試合を通して、北海道の個の育成を観点に分析を行った。

1. 大会の概要

北海道クラブユース連盟に加盟する52チームがトーナメントを闘う。

試合時間は80分(40分ハーフ)。1日1試合で4週間かけて7日間行う。

今大会で優勝したチームは8月15日から帯広市で行われる全国大会に出場する。

2. 守備

(1)高い位置から

- 連続した守備で相手の自由を奪い、そこを挟み込んでボールを奪いきっていた。
- 相手とボールの間に体を入れて奪うプレーができていた選手が多かった。
- 高い位置からプレスをかけ、ハード

ワークでボールを奪いにくい姿勢が見られた。

- ボールを奪うチャンスを逃さなかった。

(2)中盤で

- ボランチの守備が弱く、ミドルサードでは相手に自由を与えていた。一方で、個では、玉際の粘り強さが見られたこともあった。しかし、ボールを奪いきるまでには至らない場面が多かった。

(3)ディフェンディングサードで

- インターセプトする場面がよく見られ、トップの選手を自由にさせていなかった。

3. 攻撃

(1)ビルドアップ

- スピードのある選手への縦パス

REGULATION



スケジュール

7/1:1回戦 7/7:2回戦 7/8:3回戦

7/14:4回戦 7/15:5回戦

7/21:準決勝 7/22:決勝

試合時間：80分

SEMIFINAL

を使って、前線にロングキックで打開する場面が多かったが、GKやDFからのビルドアップの意識が見られたこともあった。

- あるチームの監督からは「本来はしっかりつないでいきたかった」というコメントをいただいたが、トーナメント戦ということもあり、蹴ってしまう場面が増えた。

(2)ミドルサード

- 幅を有効に使って、攻撃していた。

(3)アタッキングサード

- トップの選手は常にシュートの意識が高く、ミドルシュートを狙っていた。個の力での突破も見られたが、全体としてはシュートの意識が弱く、シュートを打てた場面があったのに消極的なプレーも見られた。
- サイドからの上がりで何度か決定的なチャンスを作り出してい

た。ボールをつなぎながらも、DFの位置を見て、ロングボールで裏を取っていた。

4. GK

(1)成果

- ボールをもっている相手に対しての準備が良い。
- 味方を鼓舞する事により存在感を出している。
- キックやスロー、フィールドプレーの技術が安定している。
- クロスボールに対して狙いをもってボールを奪おうとしている。

(2)課題

- より遠くのボールに対してダイビング出来るようにシュートに対するステップワークを向上させたい。
- ボール以外の状況把握して、味方に対して効果的なコーチングしたい。
- 相手がミドルサードでボールを保持しているときに、ブレイクアウェイの状況を予測して、狙いをも



FOR
YOUR
DREAM

SEMIFINAL



って準備する。

- キックの技術があるので、パスの意識をもってフィードしたい。
- ディフェンスとの連携・・・U12のTSG同様
- 守備におけるGKの関わりをもっと多くする。
- 自分が触れる可能性のあるスルーパスやクロスには積極的に触りにいく姿勢が欲しい。そのためにはチーム全体の守備のトレーニングの中で、GKにも積極的に役割を与えてトレーニングしていく必要がある。そういったトレーニングの中で、守備の優先順位を理解していき・・・”なぜ大きな声を出して決断しなければいけないのか””なぜゴールを空けてリスクを背負って飛びなさなければいけないのか”、”なぜGKのコーチングが必要なのか”、といった「本質」を理解していく事が、今後のGKとしての資質に関わってくると思う。

KEEP
RUNNING!



6. まとめ

トーナメント戦ということもあり、守備の意識が非常に高いため、ボールをつなぐことができず、蹴ってしまうことでボールを失う場面が多く見られた（両チームとも）。ただ、トップの選手は1対1の状況では常に仕掛けようとしていた。守備意識が強い中で（ハイプレッシャー下）ボールを奪われぬ技術（スキルのな部分とポゼッションも）の不足を感じた。

互いに譲らない勝負へのこだわりに対して、それを跳ね返すメンタル面でのタフさやボールへの執着心が、中盤でのハイプレッシャーの継続やペナルティエリア内での身体をぶつけ合いながら何とんでも失点を許さないプレーなどにつながり、選手自身が試合を通じて成長するためのゲーム環境としては素晴らしかったと思う。また、勝負へのこだわりという面では、相手ゴールに向かう姿勢やスピードなども表現されていた。

しかしながら、リスクを減らす

=エリアの挽回というように見えるようなロングボール主体のサッカーになっていることも多かった。リスクを減らす=ポゼッション率の向上による主導権を握るというものにチャレンジしてもらいたい。おそらく、各チームとも、トレーニングやリーグ戦ではビルドアップ・ポゼッション・くずし・突破において精度の追究や様々なアイデアを要求していると思われるが、このような負けたら即敗退というトーナメント戦の中で、それを発揮するまでには至っ

ていないと感じた。習慣化という意味では課題が残った。

北海道から多くの日本代表選手を輩出するためには、緊迫した試合の中で、いかに的確な判断をして精度高くプレーするか、これらの観点に着目してリーグ戦や各種大会を構築して行く必要性を感じた。

最後に、このTSGレポート作成にあたりまして協力いただきました大会及びチーム関係者の方々に感謝申し上げます、お礼のことばといたします。



PLAYERS
FIRST

ASSOCIATION

主催者コメント

北海道クラブユースサッカー
一連盟 会長：加藤孝俊

今年で18回目となった北海道クラブユースサッカー選手権U-15大会ですが、平成19年に北海道カブスLが始まり、ブロックカブスLも整備され3種リーグとして確立してきました。道クラブユースサッカー連盟としても、それまで予選リーグから決勝トーナメントの大会形式を変更して全道トーナメントにしました。チーム力に差があるチームが勝つために、リスクを負わない手段を選択することがやや気掛かりですが、これはこれとしてトーナメントの醍醐味だと感じています。ただ育成年代であることを忘れずに、2種年代へのステップとして、日々のトレーニングを大切にしてください。昨年からは帯広で全国大会が開催されることが決まっています。日本トップレベルのチーム&選手を観てもらい、トップレベルと何が違うかを感じてもらいたいと思います。



TSGメンバー

- ・ 桜庭 慎二郎
(チーフ・岩見沢明成中学校)
- ・ 大西 真司
(ゲーム分析・札幌藻岩高校)
- ・ 本多 孝至
(GK分析・札幌創成高校)
- ・ 中村 拓朗
(ゲーム分析・クラブフィールズ)

- ・ 長田 拓生
(ゲーム分析・厚真サッカー少年団)
- ・ 中川 博人
(ゲーム分析・泊FC)

ベスト16チーム

- ・ SSSジュニアユース (札幌)
- ・ コンサドーレ札幌U-15 (札幌)
- ・ アンフィニMAKI FC U-15 (札幌)
- ・ スプレッドイーグルFC函館 (道南)
- ・ DOHTO Jrユース (道央)
- ・ SC釧路U-15 (道東)
- ・ コンサドーレ旭川U-15 (道北)
- ・ 札幌ジュニアFCユース (札幌)
- ・ フロンティアトルナーレFC (道南)
- ・ FC DENOVA (札幌)
- ・ ペアフット北海道U-15 (道央)
- ・ ユニオンジュニアユース (道央)
- ・ クラブフィールズU-15 (札幌)
- ・ プロGRESSIO十勝FC U-15 (道東)
- ・ 帯北アンビシャス (道東)
- ・ 室蘭サッカークラブ (道南)

